

三次市総合教育会議（第2回）会議録

- 1 日 時 平成29年1月19日（木）
開会 午前10時00分
閉会 午前12時03分

- 2 会 場 三次市役所本館6階 601会議室

- 3 出席構成員
市 長 増 田 和 俊
教 育 長 松 村 智 由
教育委員 沖 田 稔
教育委員 小根森 直 子
教育委員 藤 原 博 巳

- 4 出席職員等
(教育委員会)
教 育 次 長 中 宗 久 之
事務局付課長 出 口 康 子
学校教育課長 甲 斐 和 彦
文化と学びの課長 杉 原 達 也
文化と学びの係長 廣 瀬 恭 子
(事務局)
総 務 部 長 福 永 清 三
秘書広報課長 矢 野 美由紀
秘書広報課係長 笹 岡 潔 史
秘書広報課主任主事 奥 村 麻 美
(傍 聴 者) 1 人

5 議事

○ 平成29年度予算について

秘書広報係長 　　ただ今から、「平成28年度第2回三次市総合教育会議」を開催する。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項の規定により、原則公開となっている。傍聴の申し込みがあった場合は傍聴を許可することとされており、本日の会議について、中国新聞様より傍聴の申し込みがあったので、傍聴及び写真撮影や録音を許可することとしてよろしいか。

構成員一同 　　―異議なし―

秘書広報係長 　　これより会議の進行は、議長である増田市長にお願いする。

増田市長 　　―挨拶―

秘書広報課長 　　―市長部局資料の説明―

教育次長 　　―教育委員会資料の説明―

増田市長 　　教育大綱を基本にしながら教育委員会、学校現場、一般行政が努力し、大きな責任を果たしていかないといけない。教育委員会として、保育所を含め学校の在り方、学校はどうあるべきかという問題意識を常に持ち続けなければいけない。私は、地域との懇談を進めているが、地域は行政だけが守るのではなく、地域や住民自治組織も同じ意識を持って子どもたちの将来のためにどうすべきか、地域としてどのようにして守り続けていくかを共に考え、努力していくことが大切である。

合併以前の給食施設の老朽化が問題になっている。配送計画を含めた給食のあり方をこの1年しっかりと教育委員会に検討してもらいたい。この1年はスタートの年であり節目の年である。

教育大綱の中で学校の環境改善として重きを置いているの

が、全小中学校へのエアコン設置である。予算の補正を行い、平成28年度の予算で全て完了させるという方針を三次市として議会に提案するために、教育委員会と最終調整を行っていききたい。こうした大きな事業を行う理由については、昨年の校長ヒアリングで各校長に心を込めて伝えているので、各校長には、責任を持って期待に応えていただきたいと思います。

また、広島県が子どもたちの3泊4日の自然体験活動を3年間実施してきたが、来年度はその事業が行われないことになった。国も県も事業は継続性を持ってやらなければならないと思う。三次市では、議会での承認が前提だが、来年度も一般財源の中で3泊4日の自然体験活動を継続していききたい。ふるさと教育として、ふるさとの良さを実感できる計画とし、将来へ向けた取り組みの一環として進めていききたい。

1月27日には、メキシコから2020年東京オリンピック事前キャンプの調査団が三次に来られる。キャンプ地に選ばれる可能性が高くなることは大変喜ばしいが、グローバル化に伴う英語の必要性を感じている。子どもたちには、英語の語学力をつけてもらいたい。体験型のイングリッシュキャンプもあるし、「がんばる中学生の英語学習応援事業」では、英検3級までの受験料補助を行っている。現在は3級までが補助の対象であるが、補助の対象を4級までに拡大しても良いのではないかと思っている。

英語教育に係る人員については、他の自治体とは比べものにならないほど十分に配置しているので、そこは教育委員会としてもプレッシャーとして感じて頑張ってもらいたい。

ハード面では、地域の皆さんの小学校や保育所を守り続けたいという強い思いを受け、神杉小学校では、老朽化が進んでいるプールの移設を、神杉保育所では、建物の新築を決断

した。三次全体の受け皿作りにもつなげていくとともに、子どもを大切にすまちとして、子育て・教育に力を入れていきたい。また、「子ども文化芸術ふれあい事業」に1,200万円、「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」に1,000万円、「ジュニアアスリート育成支援事業」に500万円と、三次市が子どもたちの教育に多額の支援をしていることについてマスコミにもっと関心を持ってもらいたい。22世紀を生きていく子どもたちに行政としていかなる支援をしていくか、もう一步踏み込んだ支援を進めることが大事である。

これからは、教育長、教育委員の皆さんから忌憚のない意見を聞かせていただきたい。

松村教育長

平成29年度予算について説明を受けたとおり、教育というのは非常に広い。生涯学習、幼児教育、高齢者への教育など多岐にわたっている。市内の小中学校には、夏場の環境整備として、学校のエアコン整備をしていただくので、子どもたちがしっかりと学力を身につけていけるようにしていきたい。

学校教育の人的配置も他市にない十分な配置をしていただいている。教育委員会として、すばらしい教育を行い、三次市に住み続けたいという思いを持っていただけるよう子どもたちに将来の夢や志を実現できる力をつけていくことが教育委員会の仕事であると思っている。

また、旧文化会館跡地の利用や三次市民ホールきりりのイベント事業など、文化・芸術の分野でも子どもたちや市民のための事業に予算をつけていただいている。そのおかげで三次市内のみならず、県内各地からも芸術鑑賞に来ていただける施設になっている。また、市内で行っている全国創作人形公募展は、全国から三次へ足を運んでいただくきっかけにな

っている。これも教育文化の一端であると思う。今後も関係機関と連携と取りながらやっていきたい。

委員の皆様からご意見があればお願いしたい。

藤原委員

市長の思いを聞き、将来のまちづくりにつながる教育をしなければならぬと強く思う。私は米作りをしており、広島市内へ出前授業に行くことがある。出前授業をしていると、教科書の学習だけでなく、子どもたちがわくわくするようなふれあい体験をさせることが非常に大切だと感じる。予算を組んでいただいている「みよし版わくわく体験活動」の中身を充実させることが必要である。市内小中学校へのエアコン設置については、今年度全て完了するとは思っていなかったが、環境が整っていく中で、教育委員として学校現場をしっかりと見なくてはいけないと感じている。地域があって、学校があるのだから、地域とのつながりも大切だと思う。

みらさか小中一貫教育校については、地域から2校も学校がなくなり寂しいという声も聞いているが、一方で良かったという声も聞いている。地域の方々がこの学校にして良かったと思える学校作りを行い、子どもたちを育てていかなければならない。

増田市長

ふるさと教育を大切にしてもらいたい。三次という地域と将来的につながりを持つてもらうためには、ふるさと教育が大切であり、学校現場と地域とのつながりを大切にしてもらいたい。県の「わくわく体験活動推進事業」はなくなるが、議会の議決がないとできないが、来年度も「みよし版わくわく体験活動」として、三次市は続けていきたい。地域とのつながりを持つとうとしない学校がないとはいえないので、教育委員会主導の下、地域との関係を活かした学校教育を進めてもらいたい。

有効求人倍率が年末に1.80倍になり、人材の確保が大変

になってきた。三次をふるさとに持つ人に対しての訴えが行政として不十分だったと思うので、広報紙などでIターンだけでなく、Uターン航路を強めていきたい。

小根森委員 市長の話聞き、三次の教育は手厚いと実感した。学校現場でどう活かしていくか。教育委員として身の引き締まる思いがした。今年度も大体の学校を見せていただいたが、その中で先生たちの授業作りに対する熱意が強くなってきているということを感じた。

指導案の中に小中連携の意図を書き込んだり、力をつけるための手立てを考えるとといった細かい配慮がなされていた。

市長が全ての校長先生とヒアリングを行われたことが大きかったのではないかと思う。それとともに、各学校の特色が表れ始めていると感じた。教育委員会でも話題になったが、布野小学校が社会科の授業研究を深めることにより、先生方の授業作りに対する熱意が大きくなり、結果として他の教科に対しても授業の内容が良くなって、子どもたちの学力向上につながったという良い例もある。こういったところに「特色ある学校づくり創造事業」の予算を使っていていただきたいと思う。小中一貫の縦の連携の面では、吉舎中学校が日影館高校との連携を始めているが、私は幼児教育との連携も頑張ってもらいたいと思う。次回の学習指導要領の案が出ているが、その中でも幼児教育についてはページを割いて書かれている。これまでと違い、幼児教育の中で忍耐力、自己制御、自尊心といった社会的スキル、また、幼児期における語彙数や多様な運動経験がその後の学力や運動能力に大きな影響を与えるということも書かれている。先生同士の交流や教育委員会と子育て支援課、社会福祉課、女性活躍支援課の交流がもっと盛んになるべきである。学校訪問をすると、小学校1～2年生まで落ち着かない学校もある。そういう学校を見る

と、保育所とどのような連携をされていたのかと思う。

横の連携では、昨年くらいから社会教育委員の方と交流している。アンケートを密にとるなど、熱心に活動していただきっており、その交流を通して、私たちも保護者の皆さんの思いを知ることができる。特に心に残っているのが、保護者の皆さんが子どもとの時間をもちたいが仕事の関係で持てないという声である。親子で参加できるイベントは三次市にもたくさんあると思うので、気軽に行けるようにしっかりとPRして、保護者の皆さんが生活に取り込めるようにしていただきたい。社会教育委員会会議では、「家庭の日」を作るという提案も出たので、市として、日曜日を家庭中心に活動する日とするなど考えてもいいと思う。企業にも、学校の参観日や懇談会に対する協力をしてもらうことを教育委員会としてもやっていかないといけないと感じている。

先ほど市長もふるさとを重んじるということの大切さを言われたが、三次高校では去年から、三次市について調べ、まとめる学習活動を始めたようだ。三次市の小中学校では以前から取り組まれているが、小・中・高とだんだんと内容が濃くなるような連携を持てれば良いと思う。そして、その連携により、できたものを発表する場も設けられたらいいと思う。三次市は教育に関しては他には負けないものがあるが、PRが足りないと思うので、いろいろな部局と協力し合い、もっとしっかりPRできると良いと思う。

増田市長

教育の取組についても、外へのPRが十分でないと行政として感じている。昨年行った校長ヒアリングを通して感じたことは、今まで続けてきたことをこれからも続けていくという惰性的なものであるということである。学校ごとに特色のある取組は違ってても良い。中1ギャップ以上に小1ギャップも大きい。保育所と小学校との交流や連携が大切で、教

育委員会だけでなく一般行政としても重要視していかなければならないと思っている。高校との連携については、できてきている。三次高校には、地域活性化や福祉などの実態について、三次市の部長等による講話の時間をとってもらった。それに基づき生徒たちは勉強し、報告会も行われた。また、日影館高校では促進住宅とリンクした取組をしようと、剣道に力を入れておられ、昨年の広島県高等学校新人剣道大会で見事に優勝された。三次青陵高校は、「もののけ」をキーワードにして、三次町に展示できるような作品を作りたいと制作に取り組まれている。来年度は市内の高校3校に対して、「三次市教育推進事業」の補助金で支援をしていきたいと思っている。また、市長として、商工会議所や議会、県議会も含めたオール三次で、県立の中学校、高校を誘致しようとしている。選択肢を増やし、三次市内の高校で学び、将来頑張っていけるような学校になるよう、あるいは他市から来て、地域の活性化に繋がっていくようにしていきたい。また、高校3校をいかに守るかということも大切である。高校と行政との連携は今まで無縁だったが、今は変わってきていると思う。一昨年から始めた「高校生キャリア育成事業」では、市民ホールを会場に、高校2年生を対象にして地元企業にプレゼンをしてもらい、貸切バスで工場見学も行っている。このような地元企業を知ってもらい、三次市に残ってもらおうという取組を今年も2月に行う予定である。

沖田委員

増田市長は、教育こそ未来への投資であるという固い信念を常にお持ちであり、素晴らしい取組をしていただいていることに改めて感謝する。ご説明いただいた事業について、感じたことを述べる。一つは「みよし版わくわく体験活動」についてである。広島県の事業として「山・海・島」体験活動で始まった事業だが、対象を小学5年生とし、3泊4日とい

う長期に渡る集団宿泊を行うということが何をねらいとしているのか知りたい。資料には、子どもたちが感謝や協力の大切さを実感するとあるが、それも大事だが、それ以上にあるのではないかと思う。また、この事業はできることなら100%三次で実施するべきだと思う。自然を相手に生活をする機会を子どもたちに与えるのは大事であり、自然のみならず歴史、伝統文化に触れることも容易にできるのではないかと思う。歴史、文化に触れるには文化財保護委員さんの力を借りて説明をしていただくなどの手段もある。また、宿泊場所について問題があると思う。施設の整った宿泊施設を利用するのであれば、宿泊する意味がよくわからない。宿泊場所は学校でも良いし、テントを張ってキャンプをしてもいいと思う。ある程度サバイバル的な要素を取り入れ、生活に関わる部分での体験を子どもたちにさせるべきだと思う。

戦後71年経ち、生活が極めて便利で快適になってきている。安全な良い生活環境であると思えるが、それと引き換えに人間は多くの物を失っているのではないかと思う。例えば、自立する力や自衛力、自給力といった能力の低下などである。もし、天候異変などがあり、水道もガスも食料も何もかも遮断された時に、自力で生活できる人が一体何人いるのかいささか不安である。実際にそういうことがあっては困るが、自分で自分の生活を何とかしてやっていける最低限度の力を身に付けさせるべきだと思う。現代の子どもはコストパフォーマンス感覚が鋭敏である。非常に合理的な考え方ではあるが、子どもたちができるだけ努力をせず、最小の努力で最大の効果を得ることを考えるようになる。あまり勉強をしなくてもいい点がとれる方法を考えるということは、一概に悪いこととは言えないが、学習意欲の低下や学力低下につながるのではないかと思う。自分の体を動かして苦労しながらやってみ

る体験を「みよし版わくわく体験活動」の中へ取り入れると良いと思う。今年は、「ひろしま さとやま未来博2017」が開催される。オープニングフェスタは市民ホールで開催されるようだが、これに関連して、三次独自のふるさと学習を取り入れていくべきではないかと思う。

二つ目は、「ブックスタート事業」についてである。とてもいい事業であると期待をしている。市内8カ所の図書館で乳幼児を対象としたお話し会が月に14回程度行われている。去年は年間で165回開かれた。参加者は親子含めて1,730名で1回の開催で約10人という参加状況であったという。「ブックスタート事業」はまさに乳幼児期の子どもを対象にしたものだと思うが、幼児を対象とした図書館でのお話し会、保育所での読書活動、小中学校で、従来から取り組まれている朝読など、小さい頃からの一貫した読書活動を計画的に行い、定着させるべきである。本の貸出冊数は、図書館が民間委託された平成22年度が約24万冊、昨年度は約39万冊で、約16万冊増となっている。そのうち小中学生が借りている数は、平成22年度は4万5千冊で、平成27年度は39万冊のうち6万8千冊で、それぞれ全体の約19%であった。小中学生の内訳でいうと、全国的に中学生になると本を読まなくなる傾向にある。いずれにしても、図書館との連携を強化して読書活動を進めていくことが三次市としても大事な取組であると思う。併せて、小中学校において読書活動の推進計画が平成27年度に策定され、5年間にわたる計画となっているが、進捗状況を確認する必要があると思う。

皆さんご承知だと思うが、昨年12月にPISAという国際学力調査の結果が発表された。PISAは日本では高校1年生を対象とし、科学・数学・読解力に関わる調査をするが、今回は読解力において課題があるという結果だった。ここで

いう読解力というのは、単に文章を読解するだけでなく、グラフや図表、写真を含め、それをどう読み取るか、読み取った後に自分でどう表現するかということである。現代の子どもたちは、スマートフォンやインターネット等で短い文章はよく読むが、論理的な長文を読む機会が減ってきており、大きな問題である。読書は間接的な体験ができるし、映像と違って考える場面がセッティングできるので、読書はすばらしいと思う。また、最近人口知能が話題になっており、将来人間の仕事は人工知能がとって代わるのではないかという心配もされているが、東大に合格するロボットを研究している学者が言うには、ロボットは考えることは全くできないそうである。ロボットは、論理と確率と統計だけで動く、機械で答えを考えて出しているわけではない。人間が人工知能に太刀打ちできるのは考える力、とりわけ読解力である。これからの子どもたちに、いかに身に着けさせていくかが大きな課題となっていくと思う。

三つ目は、「特色ある学校づくり創造事業」こそ三次市における教育関連の事業で最もアクティブな事業だと思う。まさに校長としての腕の見せ所だと思う。自分が経営する学校のビジョンをふまえて、少なくとも3年間でこういうことをして、子どもたちをどう変えていくんだという夢を語り、それを具現化していくための予算だと思うので、将来的に膨らませてほしいという思いもある。同時に事業の中で学校として、地域とどのように関わっていくかという要素を入れていくのが良いと思う。ただ学校によって差があると思うので、説明責任、費用対効果が問われる。主要事業や重点事業、施策等について概要を紹介したり、成果を取り上げて市民の皆さんに知ってもらおうといった積極的な情報発信や広報活動を教育委員会として行うべきである。数年前のように、教育委

員会だけの広報紙を作成したり，市の広報紙で広報を行うなどの情報発信としていくことはできるのではないか。例えば，2カ月に1回2，3ページでも，教育委員会のコーナーという形で教育委員会としての情報を出していくことができれば良いと思う。最近，商工会議所が新聞折込をよく出されている。商工会議所が「もののけ」を取り上げているのに教育委員会では広報を行っていない。文化財に焦点を当てた紹介など，取り上げ方はいくらでもあると思うので，来年度はそういうことを視野に入れて活動していく必要があると思う。

最後に，三次の自然・歴史・伝統文化を学び，継承するということが教育大綱の大きな目的であると思うが，少し弱い気がする。最近，「三次の歴史」という本を読んだが，本のはじめに「三次は古代からその時々道の道や交通手段によって絶えず新しいものを吸収し，自己脱皮を繰り返してきた。」と書いてあった。確かに，三次は昔から交通要路が交差しており，当然ながら経済や文化も大きく影響を受けている。三次の歴史を紐解くには，「三次の歴史」のような三次の歴史に関する本を子ども版にして小学校高学年や中学生に読んでもらうのは難しいのだろうか。そして，そういった子ども版の本を持ちながら，「みよし版わくわく体験活動」を行ってみるのはどうだろうか。小中一貫のコアカリキュラムはキャリア教育がメインだが，三次科という名前のふるさと教育がコア教育の中にあってもいいのではないかと思う。

増田市長

教育委員会だけでなく，市役所全体が宣伝が上手くないと痛切に感じている。マスコミでは，悪い面が脚光を浴びる面もあるが，感動を与えるような良い場面もかなりあると思う。そこをどううまくアピールするかが大事である。また，「みよし版わくわく体験活動」を三次市内で行いたいという思いは同じである。子どもを中心とした教育は，どこでやったと

してもそれなりの効果があるのかもしれないが、ふるさと教育とどのようにつなげていくかも大切だと思っている。また、「ブックスタート事業」は、トップダウンの事業ではなく、職員の提案による事業である。乳幼児期に絵本からスタートして本に馴染ませ、大人になった時に、いろいろな引き出しを持っているということは大切であり、読書による効果は大きいと思う。三次市は他の自治体と違い、保健師もかなり確保している。生まれた子どもの健診に1回以上は訪れるので、早い時期にお祝いを兼ねて絵本を渡す事業をスタートする。

また、「特色ある学校づくり創造事業」については、本気でしっかり取り組んでもらえれば1,000万円で固定するつもりはない。一昨年、校長ヒアリングをした中で、あまりにも固定的な考えが出ていたので疑問を持ったが、教育現場が本当に変わってきているのなら、図書費なども含めて力を入れていきたい。

松村教育長

本日、教育委員からご意見をいただいたものと、市長から冒頭説明していただいたものには相通ずるところがあり、大切にしていきたいという思いである。沖田委員からいろんなことを発信していく手段の一つとして三次の交通史の話をしていただいた。先日も米丸嘉一先生が十日市コミュニティセンターで、三次の交通史について、噛みくだいた形で市民を対象に話をしてくださった。また、今年度は教育委員会で三次の文化財ということで鶉飼を取り上げた冊子を作ったが、こういったものに形を変えて読みやすいものにしていくという機会が今後出てくると思う。次年度、「みよし版わくわく体験活動」ということでやっていこうと考えている。わざわざ「みよし版」という名前をつけたのは何故かという、地域を大事にした事業にしていこうという思いが込められている。全国版の社会科の教科書を使って、遠い東北の米づくり

の勉強ばかりをするのではなく、広島県、三次市、もっと言えば三良坂の米づくりはどうなんだろうということを、地域へ落とし込んで考えていき、実際に見せ、体験させていくことが大切だと思っている。以前「山・海・島」体験活動が始まった頃は、無人島へ出向いて体験活動をしたというところが県内にもあった。火を起こせなかったため、1食食べられなかったということが当時もあったが、それを防ぐために学校での事前学習があるのであり、食の安全面でいえば、口にするものには、火を通すという指導などを行っていくことが必要である。

しかし、事前学習は学校が指導すべきものばかりではなく、マッチの使い方など家庭での体験も大切だと思うし、家庭で体験できないものを全て学校が体験させるということは難しいと思う。また、各地域で行われる「とんど」などの行事に参加し、地域から学ぶことできると思う。学校での教育力だけではなく、家庭での教育力も高め、また、地域の支援もいただきながら、計画的に子どもたちに力をつけていけるようしっかり連携を図っていきたい。

沖田委員 「ふるさと三次ふるさとの環境をふるさとで学ぶ事業」について、小学校1～3年生を対象とする三次市環境基本計画概要版を作成し、環境教育を実施するという計画があったと思うが、まだできていないのか？

秘書広報係長 お配りした資料に書いてある情報までしかわからないが、2月には配布予定である。

増田市長 平成27年度で三次市環境基本計画を作成した。非常にわかりやすく、子どもの教材にはもってこいの内容になっている。これを子どもたちに浸透させるために、基本計画だけではなく、それを基本とした子どもたちに配布する冊子を作成中である。難しい行政言葉を羅列せず、子どもたちが絵本を

読む感覚で読むことができるので、小学生には特に良いと思う。

秘書広報係長　　その他に特段の案件がないということで、今年度の総合教育会議は本日をもって終了させていただいてよろしいか。

構成員一同　　―異議なし―

秘書広報係長　　以上をもって、平成28年度第2回総合教育会議を終了する。平成29年度の開催については、新年度ご案内をさせていただきます。